

戦国武将
島津義弘

マ
ン
ガ
で
た
ど
る



編集:しまづくめ
作画:しまたけひと

マンガでたどる 戦国武将 島津義弘

企画：島津義弘公没後四百年記念事業実行委員会 / 編集：しまづくめ
作画：しまたけひと / 発行：島津義弘公ゆかりの地あいらPRプロジェクト実行委員会

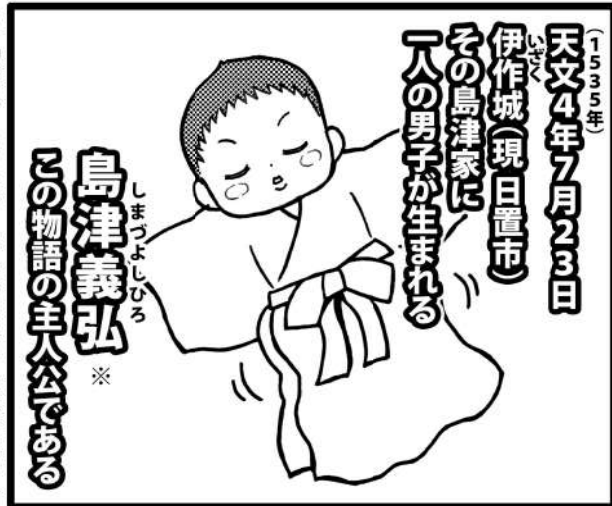
主要参考文献

岩川拓夫 「苦難の時代に変革を成し遂げた『三殿』の支配体制とは？」（洋泉社『中世島津氏研究の最前線』）
太田秀春 「朝鮮出兵における島津氏の異国認識」（洋泉社『中世島津氏研究の最前線』）
桐野作人 「島津氏と関ヶ原合戦」（学研プラス『歴史群像 2019年02月号』）
桐野作人 「さつま人国誌 戦国・近世編 1・2・3」（南日本新聞社）
桐野作人 「関ヶ原 島津退き口一 敵中突破三〇〇里」（学研パブリッシング）
桐野作人 「猫の日本史」（洋泉社）
島津修久 「島津義弘の軍功記 増補改訂版」（島津宗家記念財団）
中西豪 「慶長の役 最後の死闘 三路戦役 蔚山・泗川・順天攻防戦」（学研プラス『歴史群像 2018年4月号』）
新名一仁 「一族の統制に苦悩した『島津本宗家』の変遷と諸勢力」（洋泉社『中世島津氏研究の最前線』）
新名一仁 「島津四兄弟の九州統一戦」（星海社）
新名一仁 「島津義久の政治的立場～豊臣政権期を中心に～」（霧島市令和元年度「郷土館めぐり」第2回 資料）
三木靖 「島津義弘のすべて」（新人物往来社）
その他自治体史・郷土資料

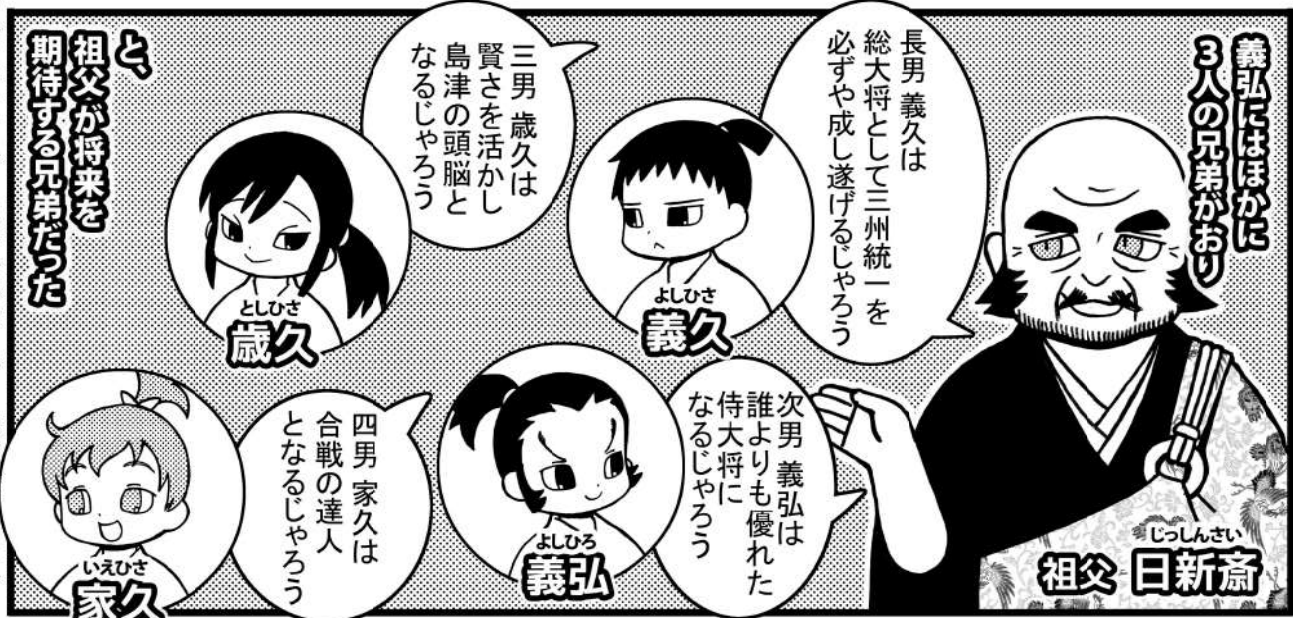
※ 著者五十音順

本誌は「島津義弘のことをあまりご存じでない方にも歴史を親しんでもらう」ことを編集方針として製作しております。基本的な部分においては史実や近年の研究に基づき編集・構成しておりますが、方針の都合上、以下の要素が含まれます。何卒ご理解頂ければ幸いです。

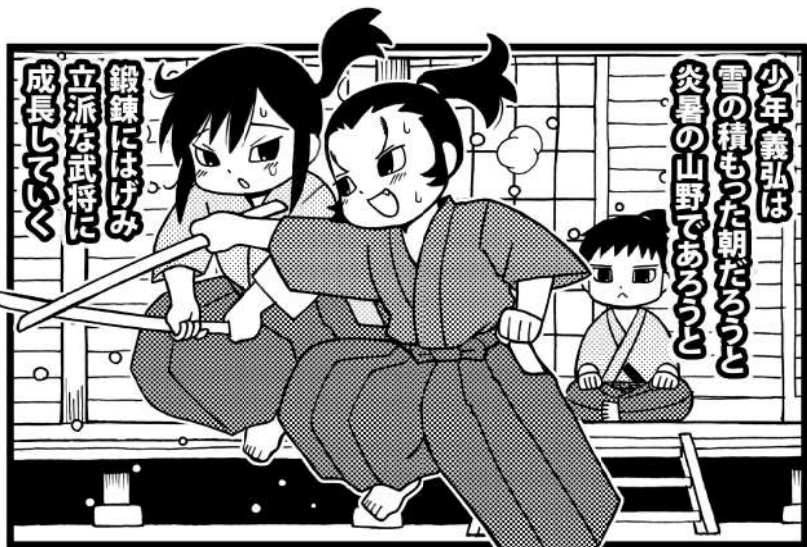
漫画表現上の演出や台詞・伝承とされる出来事や逸話の採用・一部事象の簡略化・各事件の西暦表記



※「義弘」の名乗りは一時期で、実際には又四郎(またしろう) ↓忠平(ただひら) ↓義珍(よしまさ) ↓義弘 ↓維新(いしん) ↓惟新(いしん) と名乗りを変えた。



※現在のえびの市・小林市・高原町の一带。義弘は生涯において最も長い期間（26年）、ここを本拠地とした



少年義弘は雪の積もった朝だつと炎暑の山野であつと

鍛錬にはげみ立派な武將に成長してゆく

そして1554年



義弘が20歳の時岩剣城(現始良市)を攻める戦いで初陣

高...



この戦いで岩剣城を救援に來た敵軍を先頭に立てて迎え撃ち

義弘 20才

ひるむな撃て!

押し返せ!

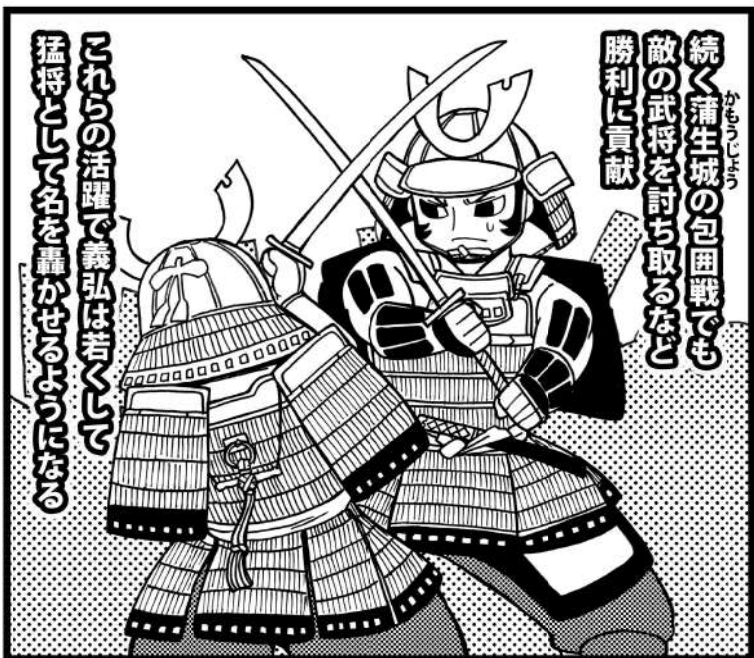
周囲が驚くほどの活躍をする



いよいよいよいよの戦いの最前線を担つてを期待せむ

義弘 30才

※ 真幸院の領主になる



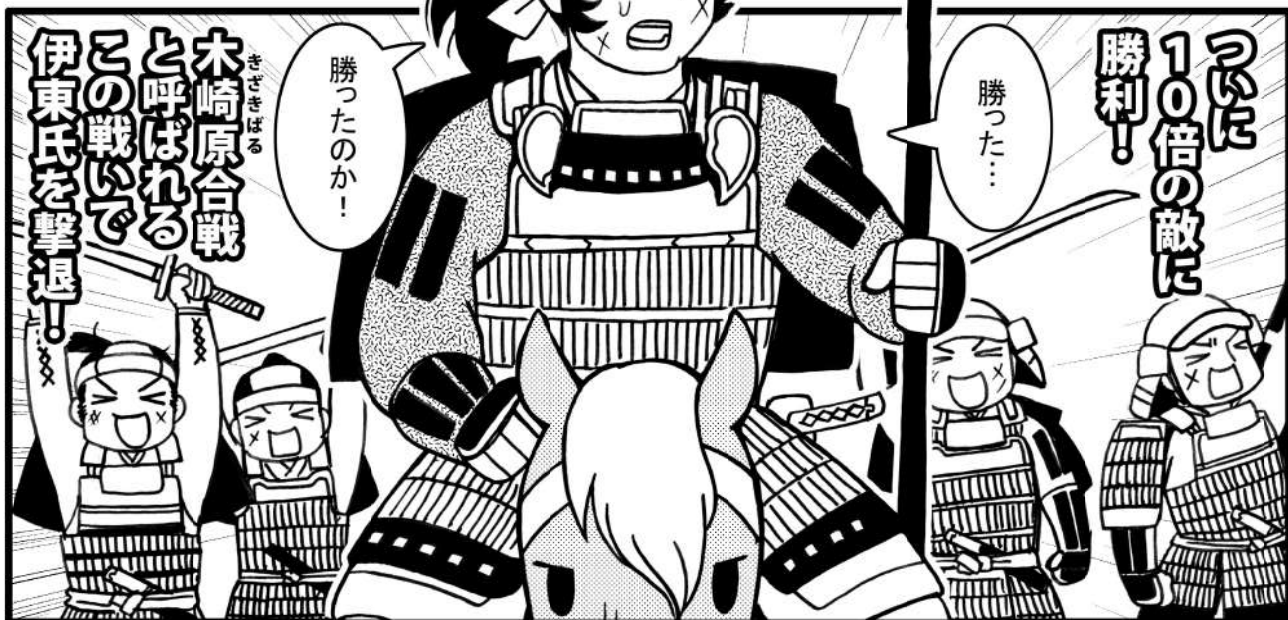
続く蒲生城の包圍戦でも敵の武將を討ち取るなど勝利に貢献

これらの活躍で義弘は若くして将將といふ名を轟かせるようになった



※① このころは神道と仏教が融合(神仏習合)していたことが多く、神社を僧侶が管理することもあった
※② この逸話、そして毛色から「膝跪躰(ひざつきくりげ)」と名付けられた。始良市帖佐に墓がある

※木崎原合戦古戦場（えびの市）には供養のため建てられた「六地藏塔」や「首塚」が残っている



ついに
10倍の敵に
勝利！

勝った…

勝ったのか！

木崎原合戦
と呼ばれる
この戦いで
伊東氏を撃退！



負けた伊東義祐は
大勢の家臣を
死なせてしまい
島津家と戦う力を
失って行く…

このままでは
すまぬぞ！



しかし
この大勝利に義弘は…

勝ったとはいえ
大勢の人々が死んだ…



味方だけでなく
亡くなった敵もいっしょに
その魂を供養 ※
慈悲の心を忘れなかった

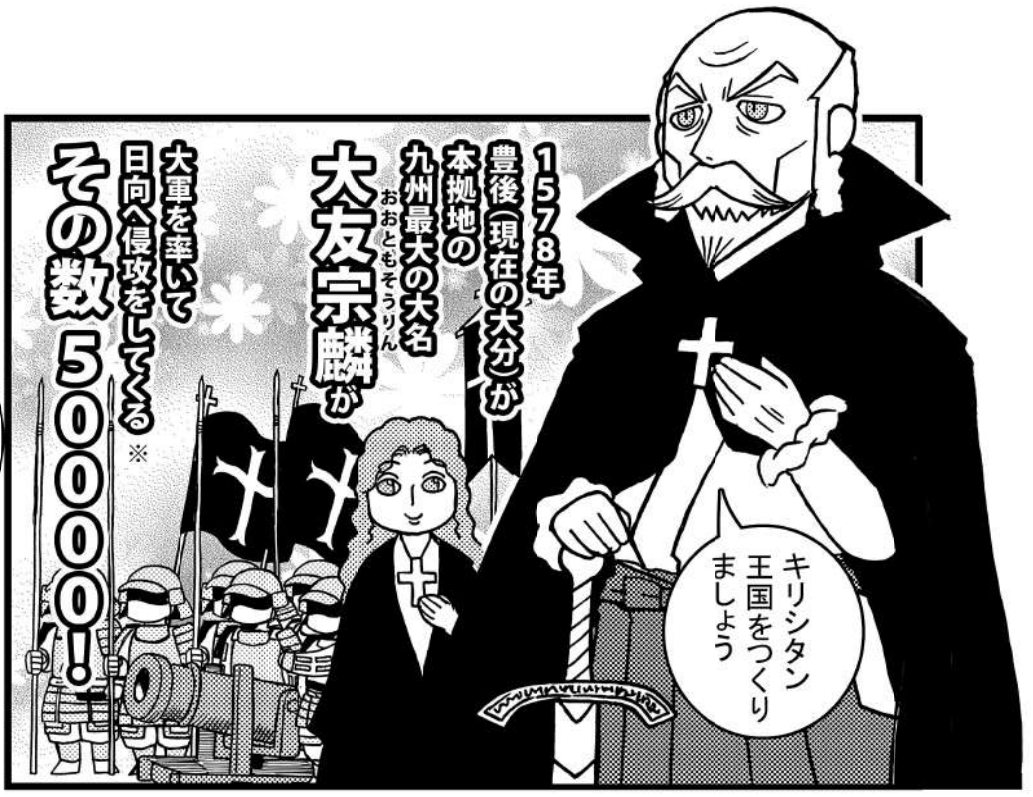


この勝利をきっかけに
薩摩・大隅・日向の国は
島津家を中心に
まとまって行く

一族、
そして兄弟の悲願
三州統一を成し遂げた！
めでたしめでたし



…とほろかす…



クリシタン
王国をつくり
ましよう

1578年
豊後(現在の大方)が
本拠地の
九州最大の大名
大友宗麟が
おおともそりん

大軍を率いて
日向へ侵攻をしている
その数50000!



弟の家久
山田有信ら
3000人が
立てこもる
高城を包囲する……

※大友氏の侵攻理由は複数あると考えられ、「亡命してきた伊東氏の支援要請に応えた」「キリスト教の理想王国建設を目指した」「島津が手に入れた南蛮貿易における日向の要港(油津や外ノ浦)の奪取」などが挙げられる



しかし大友軍は
大軍ではあったが

神社や寺を
壊しての進軍や



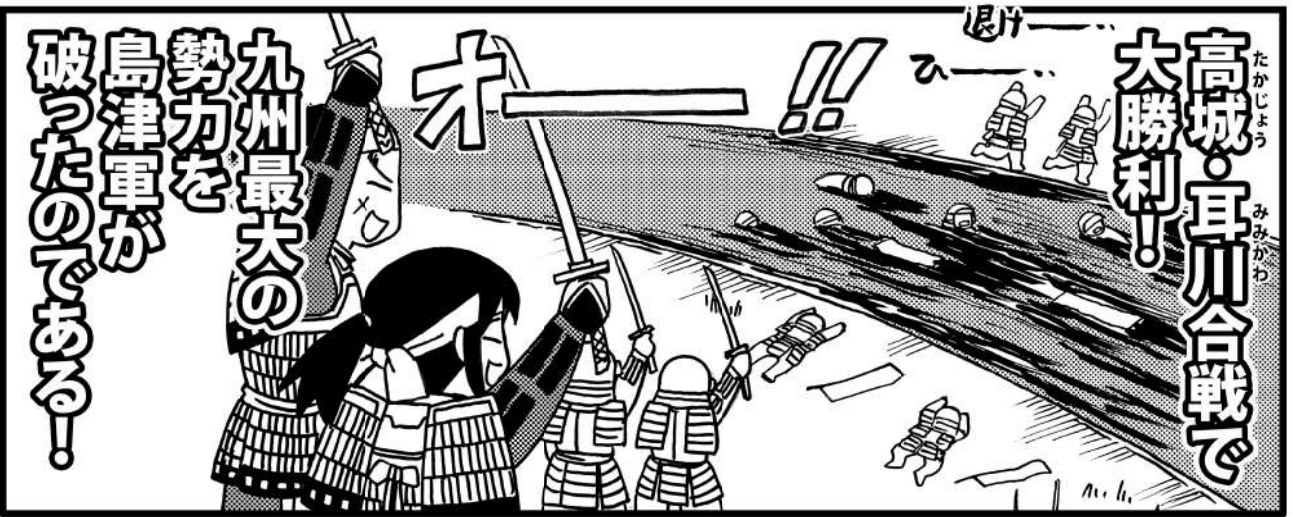
キリスト教の扱い
作戦方針の違いなどで
まともりに欠き!

テンション
下がるわ……



そこへ家久らの救援に駆けつけた義弘たちが
襲いかかる!

今こそ島津の力
示す時ぞ!



高城・耳川合戦で
大勝利!

九州最大の
勢力を
島津軍が
破ったのである!

※この「名誉」は、「他国ノ覚・外聞」という表現で関係が当時の島津氏の特徴であった



「九州統一戦」に乗り出していく

…やろう

義久

「名誉」を何よりも重要視した島津氏はその期待に応えるべく



九州最大の
大友家を
破ったことで

島津!

島津!

他の九州の大名達も島津を頼り、応援を求めようになり…

島津!



よく狙えよ
豊久

四兄弟の末弟・家久が
わずか3000人で
その救援に向き

はい
父上!

豊久
家久の子



まずは肥前の熊とあだ名される龍造寺隆信が

一息に揉み潰せ!

25000人の兵力で島原半島の有馬氏に攻め寄せれば…



それを許さない
巨大な権力があつた!

しかし



九州統一にあと二歩のところまでその勢力を拡大させていく

こうして島津家は念願だった三州太守ばかりか

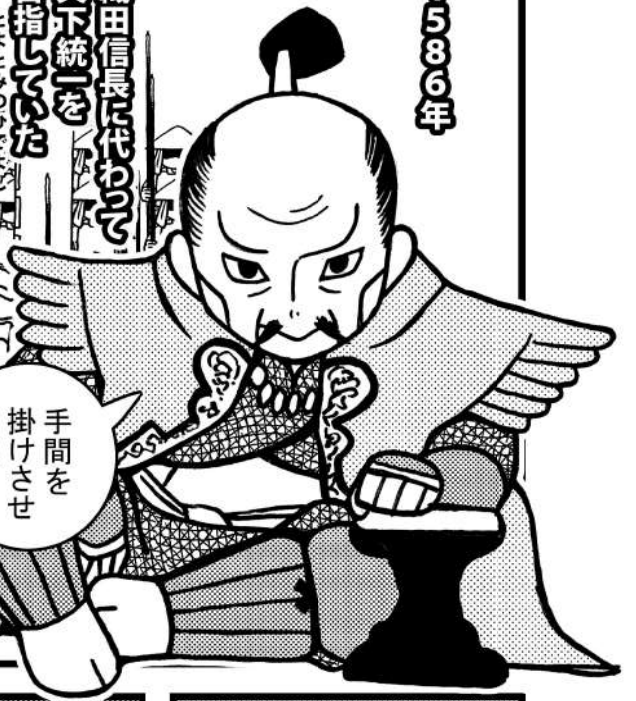


勝ったどー!!

これを撃破!
大将を討ち取る
大勝利
だった

文書に頻出する。こうした概念を価値・判断基準の上位に置くの

1586年



手間を
掛けさせ
おつて

織田信長はたゞもつて
天下統一を
目指してゐた
九州も統一しようと
乗り出している!!

豊臣秀吉が



その数なんと
20万人!!
箱一揃う!!



その先遣隊には

勝ったぞー

家久

家久が
勝利する
ことができたか



二手に別れ進んでくる
20万の軍勢に

一旦後退し
立て直せ!

味方だったはずの
九州の勢力も
次々に敵に回り!!

義弘 53才



1587年
根白坂合戦での敗北ののち

ついに島津家は
秀吉軍に降伏!!

九州統一まで
あと一歩のところでできた
島津家であったが

領土は
薩摩・大隅・日向の一部に
逆戻りとなつてしまつた



無念...

負けを認め剃髪した 義久

※① 宮崎県の中部で起こった合戦。秀吉の弟・秀長が率いる十万以上の豊臣軍に島津軍は惨敗し、降伏が決定的となった
※② ていはつ。髪を剃り仏門に入ること。戦いで敗北した側が、剃髪して相手に許しを得る風習があった

さらに島津家の苦難はつづく…

※① 一説には豊臣側による暗殺ともいわれている
 ※② 現在の湧水町にあり、野面積みの石垣が残る。この時期の義弘居城で、ここから朝鮮へ向かった。南九州において織豊期の築城技術が初めて用いられた城郭



あははは
お先にー!!

家久が
病気でなくなり…
※①



皆すまぬ…

歳久が
秀吉により
謀叛の疑いをかけられ
非業の死…



島津四兄弟のうち
二人が
若くして世界…

これは
どのような強敵が
攻めてくるよりも
島津家にとって
大きな危機だった!



皆を守るために
祖父日新公の
教えの通りわしが
がんばらねば…

義弘 58才

義弘は
島津家存続のため
豊臣に積極的に協力することで
この危機を切り抜けようと決意



1592年
大陸への野望をもった
秀吉により
朝鮮出兵が始まる

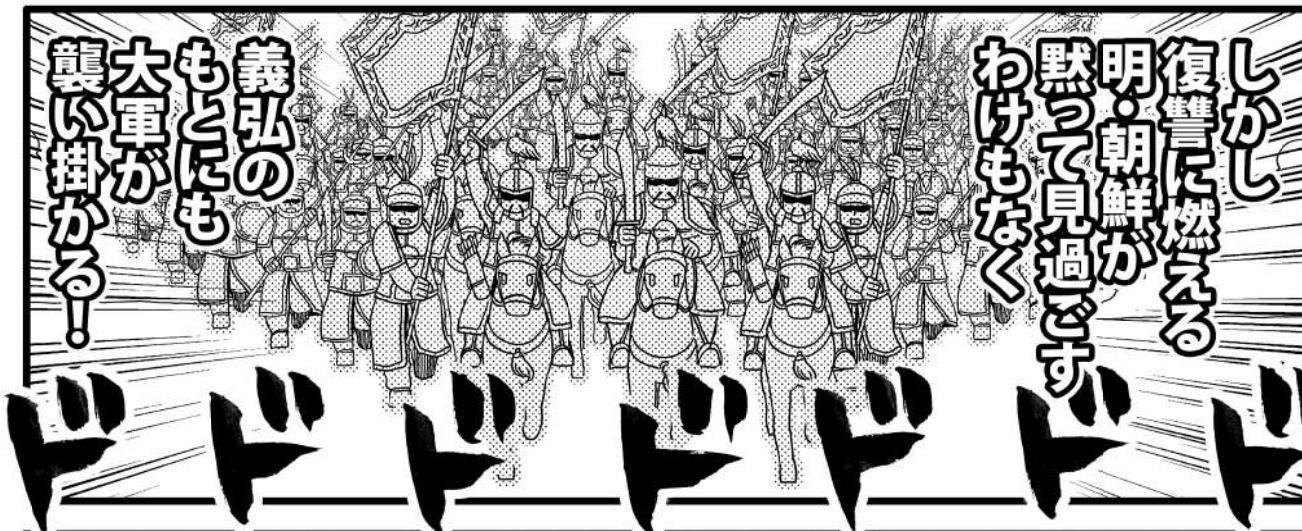
※②
松尾城

義弘は兄・義久に代わって
海を渡りこの戦いに
参加するようになる



※① この「還住(げんじゅう)政策」が島津軍は巧みであり、逃走していた現地住民が統治区域に帰還し、積極的に島津に協力する状況が生まれていた
※② 朝鮮側の記録に島津の名が度々登場する。なお、明・朝鮮側が島津を「鬼石曼子(グイシューマンズ)」と呼んだという有名な逸話は後世の創作と考えられている

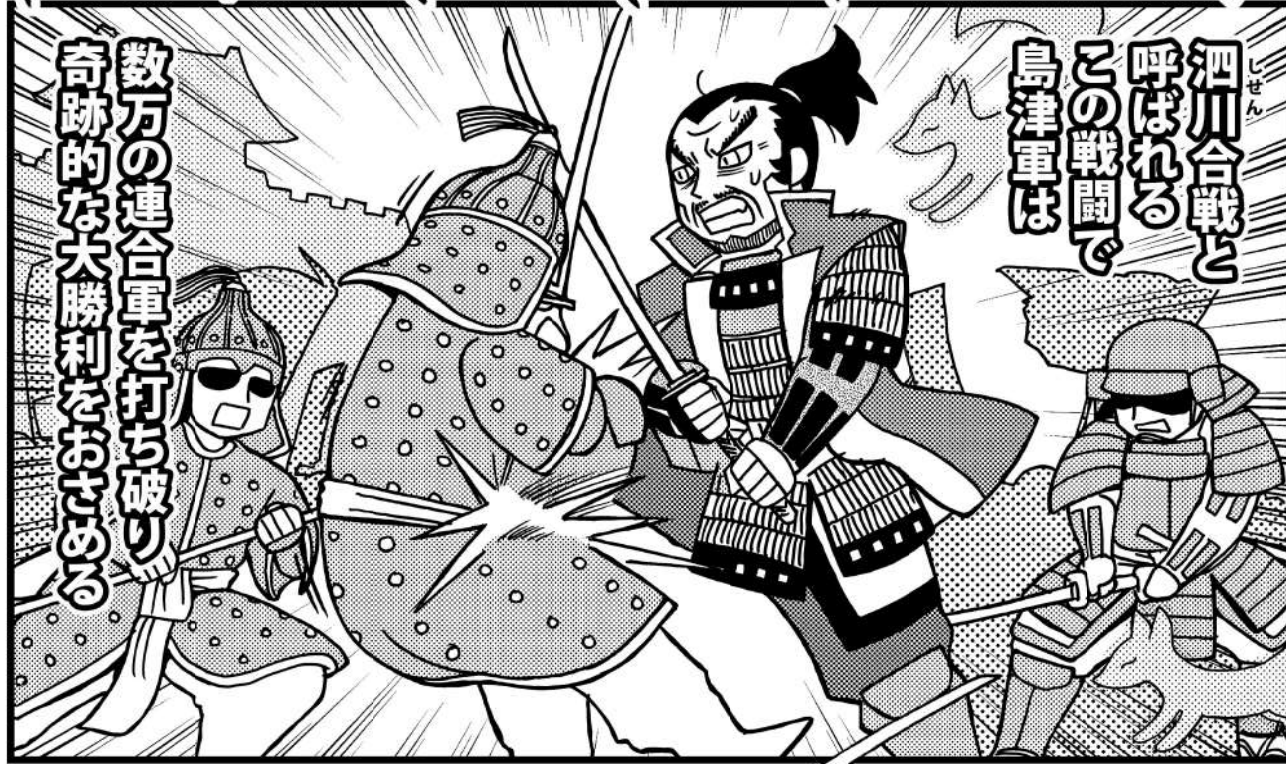
※① 初代・忠久の誕生伝説にはじまり、島津氏には狐に関する逸話が多く、稲荷を深く信仰していた。義弘の兜には狐の前立て（飾り）がつけられていたという
※② 朝鮮役最後の大規模戦闘となった「露梁海戦」でも奮戦。これらの功績により島津氏は、朝鮮役では数少ない加増を受けた大名の一つとなった



しかし
復讐に燃える
明・朝鮮が
黙って見過ごす
わけもなく

義弘の
もとにも
大軍が
襲い掛かる！

ドドドドドドドドドド



しぜん
泗川合戦と
呼ばれる
この戦闘で
島津軍は

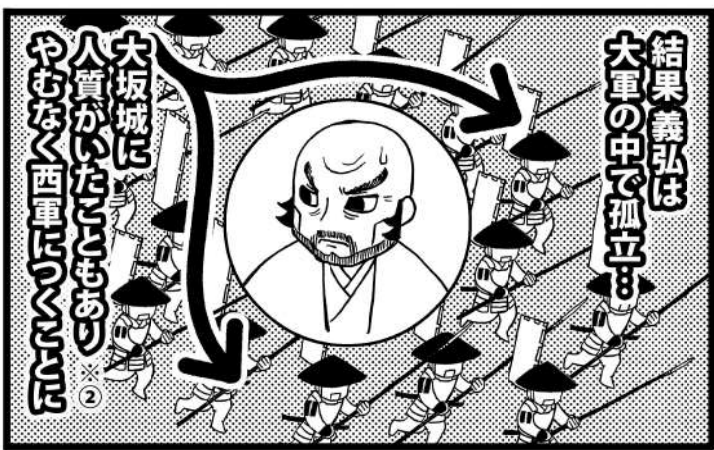
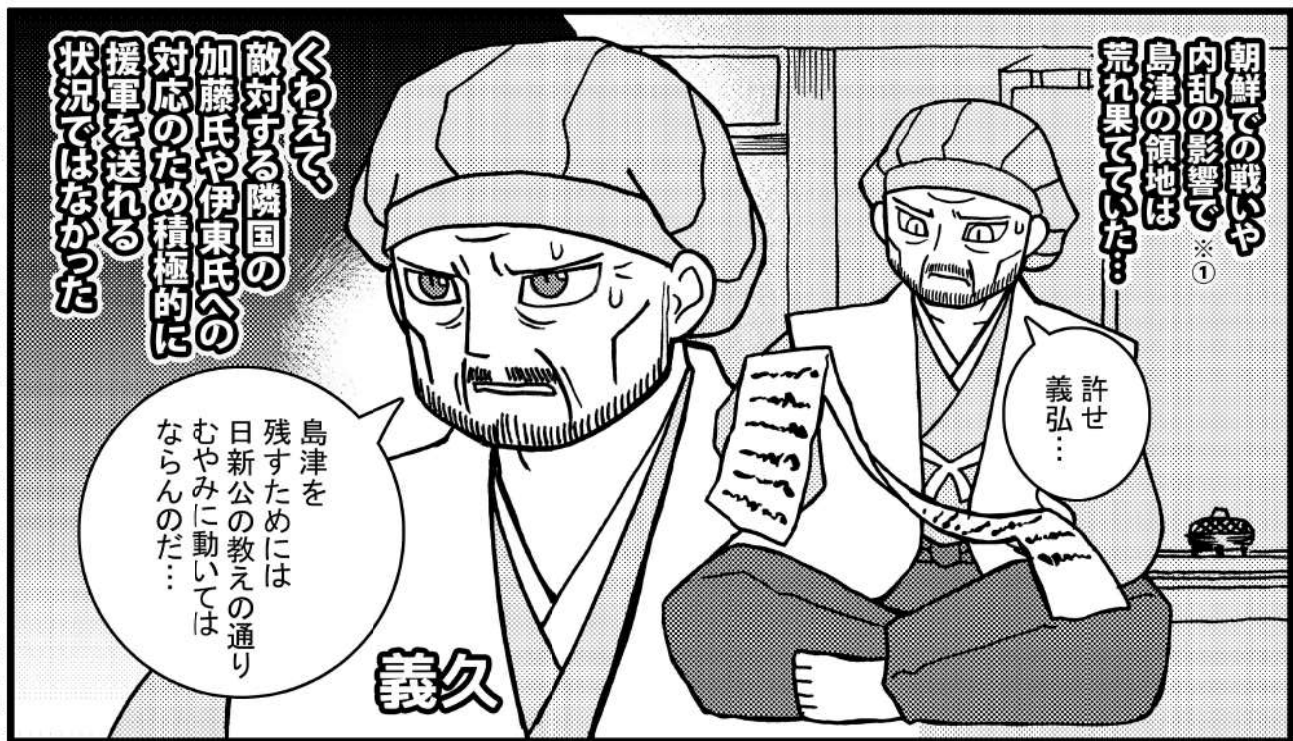
数万の連合軍を打ち破り
奇跡的な大勝利をおさめる



こうして
敵も味方も苦しんだ
朝鮮での戦いは
ようやく終結した！

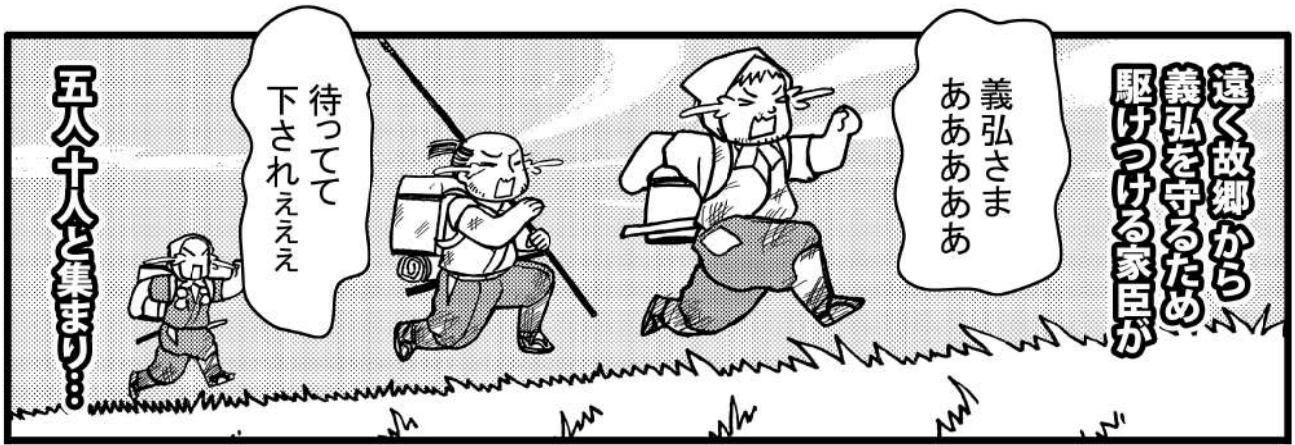


※①
泗川合戦では
白狐赤狐が現れ
島津軍を勇気づけたと
伝わっている
義弘は後の戦いでも活躍し
日本軍撤退成功の
立役者となった ※②



※① 「庄内（しようない）の乱」。義弘の子・忠恒が家老の伊集院忠棟を殺害したことが原因で始まる。乱が終結したのは、関ヶ原合戦本戦から僅か半年前だった

※② 特に大坂城にいた義久の娘・亀寿（義弘嫡男・忠恒の妻）の存在が大きく、義久が溺愛していた亀寿の安全確保を義弘は重要視していたと考えられている



しかし
天下分け目の合戦は
島津が本格的に戦う前に
僅か2時間余りで
あっけなく西軍総崩れに!



※ 後退を選択しなかった理由には諸説あるが、帰還するには反対方向にされた点が挙げられる



義弘公を
お護りするのために
集った者たちです！

それをとどめ
甥の豊久が
豊久
亡き弟・家久の子

我ら皆
戦をするため
ここへ集った
訳では
ありません



覚悟を決めた
義弘と島津軍は
前代未間の
作戦を決行！

敵は
いすかたは
何方が
猛勢か

東よりの敵
もつてのほか
猛勢！



無事に義弘公を
国元へ帰すことが

我らの
勝利です！



それは！
後退ではなく
前進撤退！！

その
猛勢の中に
あい駆けよ！

敵中を突破して
故郷への血路を開く
世に言う
「島津の退き口」
である！

なってしまう点、義弘自身が老齢のため伊吹山地を越えるのが難しいと判断



生きて
帰すな！

軍団最強の
本多忠勝
いっしょにおませせ
怒る東軍大将
徳川家康が

武力93

武力98



すまぬ…
皆が生かして
くれた
この命…



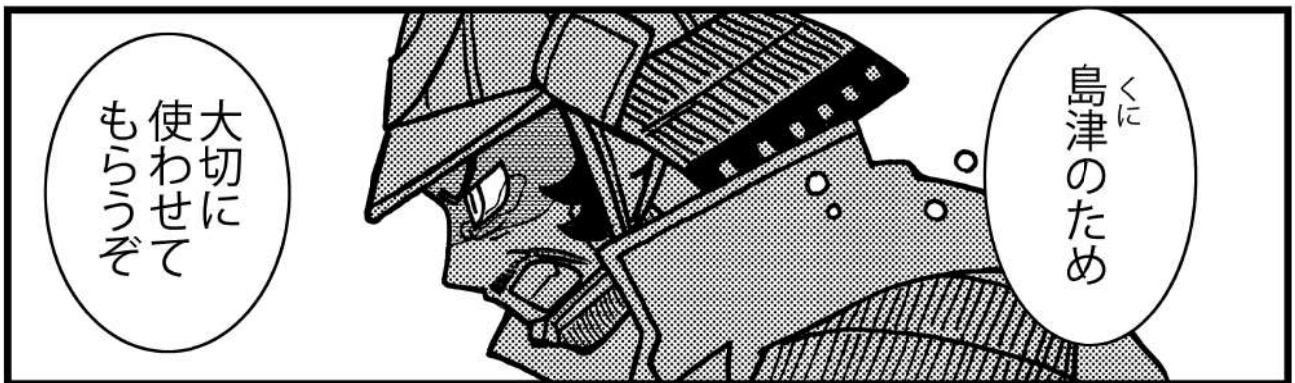
ほか大勢の家臣達が
義弘を逃すため
その身を捨てていった…



※ 盛淳は「もりあつ」と読む説もある

対する島津勢は
家老の長寿院盛淳が
影武者となつて義弘の身代わりは

豊久も
奮戦の中
命を落とし



大切に
使わせて
もらつぞ

くに
島津のため

戦場離脱後
多数の困難を経て
大坂へ辿りつき

人質となっていた
妻の実窓夫人や
姪の亀寿姫を救出

関ヶ原の決戦から十八日後
数十名の家臣と共に帰国する



かめじゅひめ
亀寿姫

じっそうふじん
実窓夫人

帰国後は
兄の義久
息子・忠恒の
硬軟
織り交ぜた
巧みな交渉と



義久

ただつね
忠恒

敵であった
井伊直政
福島正則らの
助けもあって



※①
応援して
マッス!

義弘は許され
鳥津も
取り潰される
ことなく
決着した



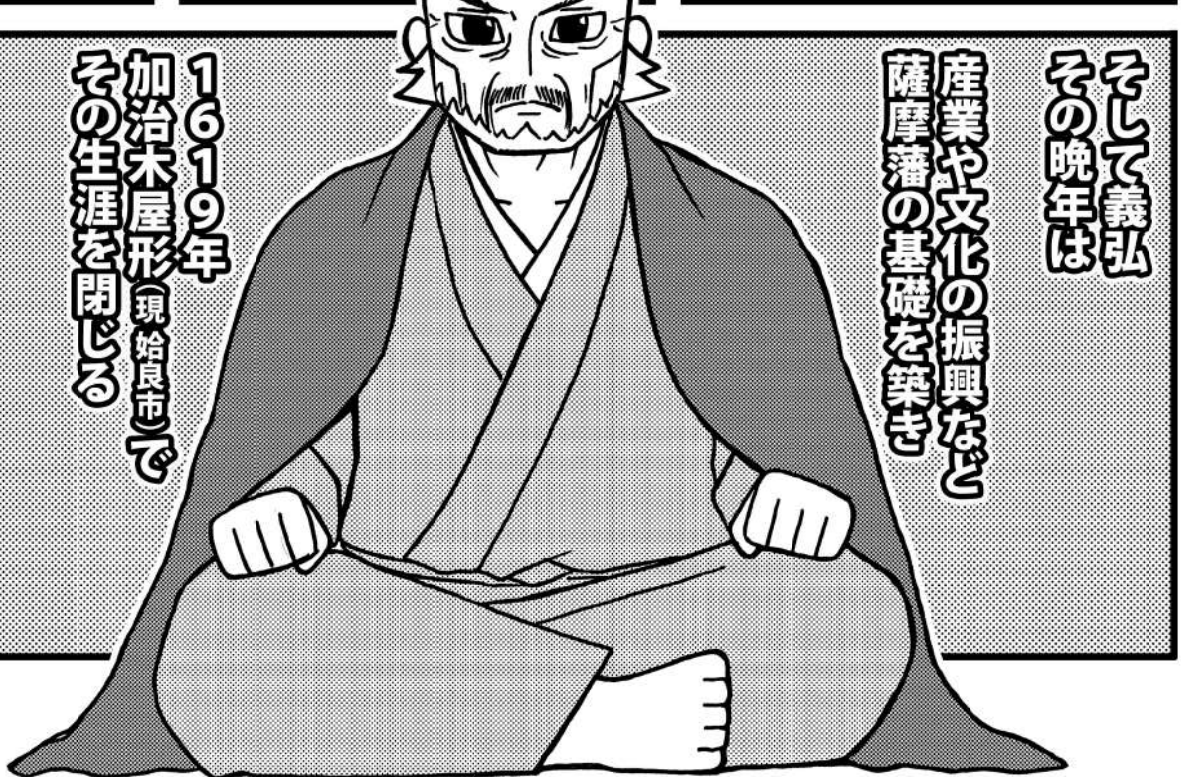
※②

そして義弘
その晩年は

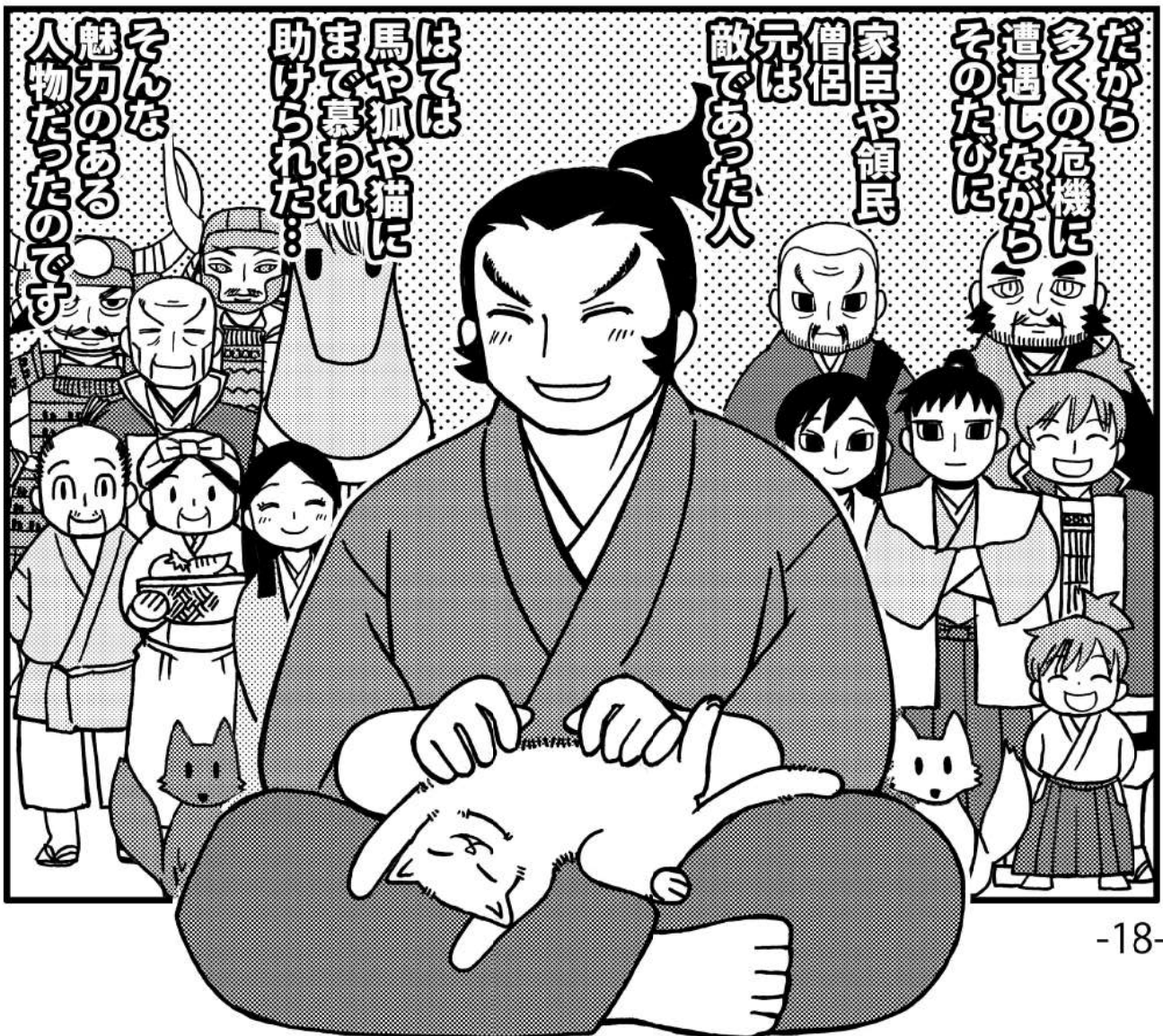
産業や文化の振興など
薩摩藩の基礎を築き

1619年
加治木屋形(現始良市)で
その生涯を閉じる

享年61才



※① その他にも、黒田如水(官兵衛)ら多くの武将が鳥津放免のため動いた
※② 関ヶ原の本戦に参加し、最後まで西軍側だった大名で本領が安堵されたのは鳥津氏が唯一の事例





義弘公の遺した文化特産品



意外な・身近なモノに多くのゆかりがあります。

さつまやき

薩摩焼

朝鮮の戦いのあと連れ帰った陶工たちを保護し、生まれた焼物。幕末、パリ万博において出展され好評を博し、今も伝統工芸美術品として高く評価されています。



ごじゅうきょういく

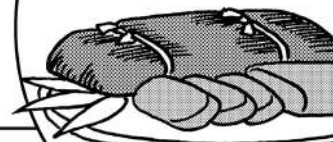
郷中教育



西郷や大久保ほか、幕末の薩摩藩で活躍した偉人たちを生んだ「郷中教育」。この始まりは、若者の風紀の乱れを戒めた義弘公に起源があるとされています。

あくまき

南九州で親しまれている郷土菓子。朝鮮の役や関ヶ原合戦の際、兵士たちが保存食として携帯したという説があります。



かじきまんじゅう

加治木饅頭



義弘公が最後に住んだ、「加治木」の名物酒蒸しまんじゅう。義弘公が橋の工事の監督をした際に、お茶菓子として出されたという話が伝わっています。

しょうのう

樟脳

クスノキから採られ、医療品や防虫剤として珍重された樟脳。江戸時代には薩摩藩の主要輸出物として生産され、一説には、一時期ヨーロッパで流通した樟脳の多くが薩摩藩産のものとも言われています。



義弘公の逸話



多くの人々から慕われ「薩摩武士の模範」として尊敬を集めた義弘公。その人となり伝えるエピソードが数多く伝わっています。ここでは代表的なものをご紹介します。

愛妻家

妻・実窓夫人と夫婦仲は大変良かったと伝わっています。「道端で大根を洗っている所を義弘が見初めた」という逸話からも分かる通り、実窓夫人は身分が低く、この時代に普通だった政略結婚でもありませんでした。夫人に送られた手紙も数通残っており、「今夜もあなたを夢に見た。ちょっとしたことでも良いから近況を知らせてほしい」「自分のことより、あなたのことが心配だ。いつもあなたのことを想っている」といった言葉を送っています。



身分分け隔てなく^{へだ}



身分の差が絶対だった時代にも関わらず、家臣に親身に接し、意見もよく聞いたため、家臣から慕われ、その結束は非常に固かったと言われています。それを示すものとして、「朝鮮出兵の際、日本軍には凍死者が続出したが、島津には一人も出なかった。不思議に思った他の大名が島津隊を訪れた所、義弘は兵士達と一緒に暖をとっていた。寝食を共にし、見回りをして気を配っていた」という伝承があります。

子供好きの教育者

戦場にいる間も、家族を気にかけて、子供たちへの教育のありかたについて、こまめに手紙を出していました。それは自分の子供以外にも同様で、家臣に子が生まれると館に招いて「子は宝なり」と祝福したり、元服（当時の成人の儀式）の際には一人一人に声をかけ励ましたと言われています。また、領内で悪さをした子供を集めて桜島などに送り、勉強させて反省を促し、更生させたとも伝わっています。



一流の文化人

戦いにおける勇猛さばかりが語られがちな義弘公ですが、和歌や学問に秀で、茶の湯もたしなんでいた文化人でもありました。

特に茶の湯については、千利休に学び、古田織部とも親交がありました。焼き物にも造詣が深く、朝鮮人陶工たちに作らせた薩摩焼は多くの大名や茶人の注目を集め、全国から高い評価を受けました。



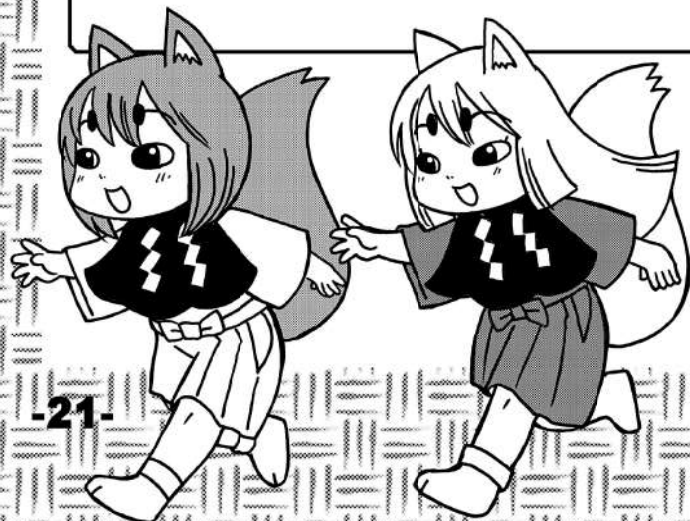
動物好き



動物に関するエピソードがとても多い義弘公。マンガで登場した狐や馬の他には、猫に関する話が有名です。島津家では多くの猫を飼っていたらしく、親交のあった貴族から「猫を送ってほしい」と頼まれています。また、朝鮮に猫を連れていき時計代わりにしたという伝承もあり※、この内、茶トラ柄の猫は義弘公の息子・久保（ひさやす）に特に可愛がられたことから後に「ヤス」と命名されたと伝わっています。以来鹿児島では茶トラ猫を「ヤス猫」と呼ぶ風習が生まれました。

医術の達人

戦いにおける傷を治療する「金瘡（きんそう）医術」に詳しく、一族や家臣に対しその伝授を行うほどの達人でした。実際に戦場においても、傷ついた家臣をみずからの膝枕にのせて治療を施したという記録が残っています。この家臣・木脇祐秀はとても感激し、関ヶ原でも活躍、義弘公が亡くなった際には殉死（後を追って自害すること）するほど恩に感じていました。



※ 猫は周囲の明るさによって「瞳孔」の大きさが変わるため、この性質を利用して時刻を把握したと言われています。この時7匹の猫が海を渡り、各部隊に配属されました。この猫達は島津家別邸・仙巖園内に「猫神」として祀られています。

義弘公ゆかりの伝統芸能

数多くのゆかりの行事やお祭り。ここではその一部を紹介します。

みょうえんじ

妙円寺詣り (日置市)

鹿児島三大行事の一つ。関ヶ原の敵中突破、その苦勞を武士たちが偲び、甲冑に身を包んで義弘公を祀る妙円寺に参拝したことから始まりました。往復40kmを武者行列が歩きます。

※妙円寺が廃寺となった以降は徳重神社に参拝（妙円寺はその後復興しています）



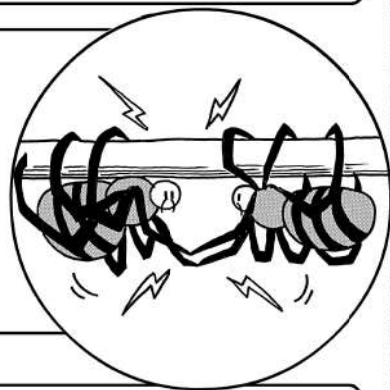
太鼓踊り (始良市)

朝鮮の役の凱旋記念として盛んになったとされる、踊りの行列です。複数の踊りが傳承し、特に「吉左右(きそ)踊り」は朝鮮での出来事に基つき、赤狐と白狐に扮した踊り手が登場します。



くも合戦 (始良市)

コガネグモのメスを棒の上で戦わせ勝敗を競う行事。朝鮮の役の際、義弘公が兵士たちの士気を高めるために行ったことが始まりとされています。



ときほし

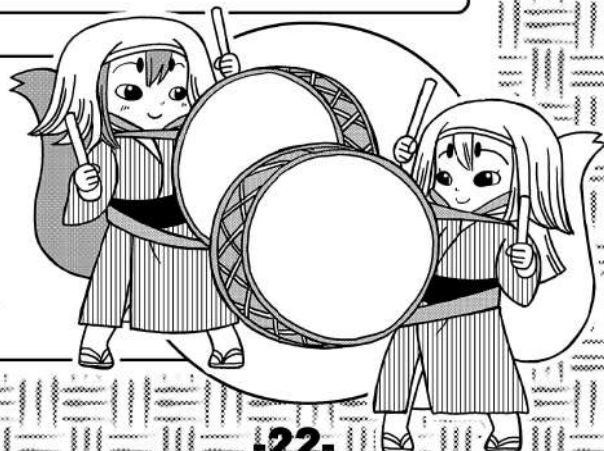
磨欲踊り (湧水町)

朝鮮に向かう際に勝栗神社で行われた出陣式において、勝利と生還を祈願して踊られた舞。戦後途絶えていましたが、2016年に71年ぶりに復活しました。



大太鼓踊り (えびの市)

諏訪神社（現在の南方神社）に義弘公が太鼓と鉦（円盤状の打楽器）を寄進したことをゆかりとする踊り。義弘公の功績を称え、五穀豊穡ごこくほうじょうを願って奉納されます。



義弘公 ゆかりの史跡



- ① **日置市** 伊作城跡 (いざくじょうあと)
島津四兄弟の生誕地。
- ② **日置市** 一字治城跡 (いちじょうあと)
義弘公が幼少期に過ごした城。
- ③ **日置市** 妙円寺 (みょうえんじ)
義弘公の菩提寺。位牌が安置されている。
- ④ **日置市** 徳重神社 (とくしげじんじや)
義弘公を祀る。近くの伊集院駅には銅像も。
- ⑤ **鹿児島市** 福昌寺跡 (ふくしょうじあと)
島津家歴代の墓地。義弘公の墓がある。
- ⑥ **始良市** 岩剣山 (いわつるぎやま)
義弘公初陣の地。特徴的な形で、城跡も残る。
- ⑦ **始良市** 膝跪驛の墓 (ひざつきくりげのはか)
木崎原合戦で義弘公を助けた愛馬の墓。
- ⑧ **始良市** 加治木屋形跡 (かじきやかたあと)
義弘公が最後の住まいとし、亡くなった場所。
- ⑨ **始良市** 精矛神社 (くわしほこじんじや)
義弘公を祀る。子孫の加治木島津家が現在宮司を務める。
- ⑩ **湧水町** 勝栗神社 (かちぐりじんじや)
朝鮮出兵の出陣式が行われた神社。
- ⑪ **湧水町** 松尾城跡 (まつおじょうあと)
朝鮮の役前後の居城。石垣が残る。
- ⑫ **えびの市** 木崎原合戦古戦場 (きざきばらがっせんこせんじょう)
木崎原合戦最大の激戦区となった場所。
- ⑬ **えびの市** 加久藤城跡 (かくとうじょうあと)
木崎原合戦の舞台の一つ。実窓夫人が住んだ。
- ⑭ **えびの市** 飯野城跡 (いひのじょうあと)
真幸院にいる間、義弘公の居城だった山城。



マンガでたどる 戦国武将 島津義弘

令和元年 7月21日 初版 発行

令和 2年 11月12日 第3版 第1刷 発行

【企 画】島津義弘公没後四百年記念事業実行委員会

【編 集】しまづくめ

【作 画】しま たけひと

【発 行】三州同盟会議(日置市・えびの市・湧水町・始良市)

お問い合わせ先…事務局(始良市商工観光課) tel:0995-66-3145

本書の無断転載・複写を禁じます

戦国島津をもっと深く・もっと楽しく

「しまづくめ」

<https://sengoku-shimadzu.com/>

<https://twitter.com/shimadzukume>

web



twitter

